

読売新聞 きょう（9月7日）のイチ押し

1面 自民総裁選 石破氏が出馬見送りを検討

自民党総裁選を巡り、石破茂・元幹事長は出馬を見送るべきだとの声が石破派内で高まっています。石破氏は情勢を見極めて最終決断する構えですが、出馬しない場合は河野太郎行政・規制改革相を支援する方向です。

- ★石破氏は派閥幹部らと今後の対応を協議。幹部は「石破氏の出馬には反対。河野氏支持も選択肢の一つ」と話しました。石破派は小派閥で、総裁選勝利には、党員票の獲得がカギですが、知名度が高い河野氏が出馬の意向を固めたことで、「党員票が河野氏に流れる」との懸念が広がっています。
- ★一方、河野氏は所属する麻生派会長の麻生副総理と会談して、改めて出馬の意向を示し、麻生氏は派閥幹部の意見を丁寧に聞くよう伝えたようです。

1面・特集面 東京五輪とパラリンピックを「総括」

東京五輪・パラリンピックが5日に閉幕しました。新型コロナウイルスの影響で史上初めて延期されるなど、異例づくめだった大会を検証する連載を1面と特別面に連動するかたちで開始しました。

- ★国際パラリンピック委員会のパーソンズ会長は「ありがとう東京。逆境の中、共にやり遂げました」とコロナ禍の困難を乗り越えて大会を完遂できたことに謝意を示しました。大会を無事に終えることができたのは、医療水準の高さ国と東京都の財政力など日本の総力結集の結果で、コロナ克服への一里塚となりました。
- ★今後の焦点は大会収支決算です。約900億円と見込んだチケット収入は無観客で激減しました。赤字は原則として、東京都が補填しますが、小池知事は国などと分担協議する意向を示しています。4回にわたって、大会の意義と課題を探ります。

他紙と比べて

就活生を応援する「就活 ON!」は月に1度の拡大版。紙面中央の見開き2ページで掲載しています。今回のテーマは部品や素材など企業向けに販売する「BtoB（企業間取引）」企業です。就活では、身近な企業を意識する傾向が強いですが、社会を支えるBtoB企業に目を向けると、選択肢が広がります。本紙は就活に励む大学生をサポートします。